

## MLA メーリングリスト求人にみる ヘルスサイエンス系図書館員の役割変化

藤原純子<sup>1)</sup>, 柳生奈美<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>加古川中央市民病院, <sup>2)</sup>放送大学

### 【背景】

ヘルスサイエンス系図書館員に求められるスキルや知識は、時代により変化している。米国では1970年代にサーキット・ライダー・ライブラリアン（CRL）やクリニカル・メディカル・ライブラリアン（CML）が登場した。2000年にインフォメーションистが提唱され、エンベディッド・ライブラリアン、またシステム・ライブラリアンや経営に参画するリーニング・ライブラリアンも登場した。NLM（米国立医学図書館）は、2017年からデータ・ライブラリアンの重要性を強調している。日本において専門職としての図書館員の役割を検討する上で、先行する米国の求人情報に着目し、調査を行った。

【方法】米国医学図書館協会が運営するメーリングリストであるMEDLIB-Lを利用した。収集対象はメール件名から[JOB][POSITION]等求人情報を抽出し、エクセルで記録した。対象期間は2022年5月～2023年1月、収集データは①ポジション名 ②機関名 ③求人情報リンクである。なお、③についてはリンク先に給与や待遇等の情報がある場合はテキストファイルで記載した。

【結果】求人は重複を除き140件あり、JOB名の上位5件（件数）は以下の通りであった。Medical Librarian (19), Health Sciences Librarian (14), Education Librarian (9), Electronic Resources Librarian (9), Informationist (8).

【考察】現在もCRLやインフォメーションистの需要がある。教育系（Education）や、システム系(Data, Electronic, Digital)等は名称が細分化しており個別のスキルに特化していた。

【研究の限界と今後の課題】今回は限られた期間のパイロット調査であり、リンク先の求人情報も掲載期間が短いため、十分に内容や待遇を吟味するには至っていない。今後の課題として、過去のリストアーカイブとの求人職種の変遷や、新規求人の追跡調査を行い、ヘルスサイエンス系図書館員に求められるスキルや待遇についての変化を明らかにしたいと考える。

### 【参考文献】

佐藤正恵. 病院図書室のエンベディッド・ライブラリアン：マグネット・ライブラリーを目指して3：図書館員の活動モデルを考える. 薬学図書館. 62(3), 144-146, 2017.

酒井由紀子. 米国の医学図書館員の質保証. 専門図書館. (279): 21-26, 2016.

Davidoff, F. Florence, V. The informationist: a new health profession?

Ann Intern Med. 2000 Jun 20;132(12): 996-8.

Lacchia, A. Librarians seek more support as research partners; Report highlights lack of institutional recognition of changing librarian roles. Nature index.20.sep.2021.

【謝辞】佐藤正恵氏（千葉県済生会習志野病院）に文献提供，ポスター印刷等の協力を得た。